

医心 伝心

今年はチャドクガの当たり年？

県医師会監事 佐藤 英敏

立冬を迎えて朝夕めっきり寒さを感じるようになりました。しかし今年かというと暖冬に始まり、5月を除けば富山の平均気温は昨年より0.8度も高めに経過し、全体に温暖な気候だったように思えます。そんな影響でしょうか、虫たちの活動期間も長かったようで、皮膚科を標榜する当院には虫に刺されたり、咬まれたりして来院された患者さんの数が4月～10月までの7か月間で延べ1500人弱あり、昨年と比較して約1.4倍という結果でした。一口に虫刺されと言ってもダニ、ノミ、シラミ、ドクガ、カ、ブユ、ヌカカ、アブ、ハチ、ムカデなど様々で、その他にもクラゲ、ゾエア、オコゼなどの海洋生物による皮膚炎などその種類はいろいろです。その中で特に昨年より多かったのがチャドクガの幼虫による毛虫皮膚炎で、その患者数は258名と昨年の倍近くでした。今年も全国的にも毛虫が大発生したそうで、特に子供たちの毛虫皮膚炎が多かったのが印象的でした。

チャドクガは幼虫や成虫に毒針毛があり、これが皮膚につくと激しいかゆみを伴う皮膚炎を起します。チャドクガの幼虫(毛虫)は年2回4～6月と8～9月頃に発生し、8～9月と9～11月に成虫(ガ)になります。成虫はツバキやサザンカなどの葉に卵を産みつけ、孵化した幼虫は葉を食べて成長します。ですからツバキやサザンカなどが植えられている場所で被害に遭うことが多いのです。直接毛虫に触れたり、また風で飛散した毒

針毛がついたりしても皮膚炎を発症します。なんと一匹の毛虫に数十万本の毒針毛が付いているのですから大発生したら恐ろしいことです。市内の保育園や学校の園庭・校庭の周囲には生垣がありツバキやサザンカが植えられていることが多く、そのため子供の患者が多かったのではないかと思います。ある小学校で校庭の周りの植え込みに毛虫が大発生したので校内放送で生垣に近づかないよう注意したのですが、好奇心旺盛な子供たちが毛虫退治に出かけて振り返りに遭い何人も来院されました。その後学校の依頼で毛虫駆除のため植え込みの剪定に駆り出された父兄も同様に毛虫の被害に遭い、踏んだり蹴ったりでした。

チャドクガは葉の裏に産みつけられた卵で冬を越します。ですから冬のうちに卵を見つけて駆除したり、幼虫の小さいうちに葉を切り取って駆除するのが効果的です。来年こそ、今年の教訓を生かして毛虫被害に遭う前の対策が求められます。